



経営者・従業員の為の 健康ひとくちメモ



(公財)福井県健康管理協会 臨床検査技師 稲葉 一郎

40歳を過ぎたら大腸がん検診を毎年受けましょう

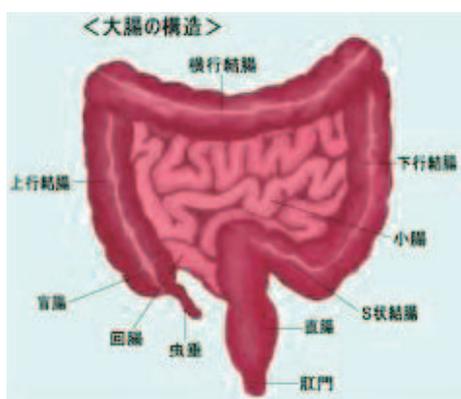
大腸がんとは？

◎大腸の構造

大腸は、盲腸、結腸（上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸）、直腸と呼ばれる部位からできており、これらの部位にがんが発生したものを大腸がんと言います。

◎大腸がんの現状

国立がん研究センターが発表したがん統計予測によると、大腸がんは罹患数で第1位、死亡数は肺がんに次いで第2位となっています。過去20年間で2倍近く増加していることから、遠くない将来に死亡数で第1位となると予想されています。



大腸がん検診について

◎なぜ大腸がん検診が必要か

大腸がんの発症率は、男女とも40～50歳代から増加をはじめ、加齢とともに上昇していきます。

大腸がんは、早期に発見できると治癒率が非常に高い病気です。しかし、大腸がんは早期では自覚症状が現れない事が多い為、早期に発見するには検診を受けることが大切です。

◎大腸がん検診の検査方法

大腸がん検診では「便潜血検査」を行います。検査は自宅で行い、病院など定められた場所へ提出します。大腸がんがあると、便が腸内を進む間にがんの組織と擦れあって血液が付着します。棒状の検査キットを使って便の表面を「まんべんなく擦りとり」容器に入れます。

検査は、採便された容器の、肉眼では確認できない大腸からの微量な出血を検出します。

出血は毎日あるとは限りませんので、2日連続で2回採便す

る「2日法」を行います。

◎大腸がん検診の注意点

便の血液は常温では減少していくので提出するまでの間、自宅の冷蔵庫などの低温下で保管して下さい。容器は密封されていますので汚染される心配はありません。

◎大腸がん検診の有効性

「便潜血検査」は、死亡率を下げる有効性が確認されており、国の指針でも一次検査の方法として勧められています。2日連続で検査する事で、進行がんは90%、早期がんは50%発見できるといわれています。

◎毎年検査して早期発見

便潜血検査は、食事制限が無く、費用も安くすむ簡単な検査です。

市町運営の大腸がん検診では、男女とも40歳以上の方が対象です。年に1回、市町の助成が受けられますので、お住まいの市町にお問い合わせください。

大腸がんを早期で発見するためには40歳を過ぎたら大腸がん検診を毎年受けましょう。